

平成28年10月31日発行

しろいし 市議会だより

2016

秋

第183号

- 2～4P 9月定例会の概要・審議した議案
- 5～7P 決算審査特別委員会
- 7～9P 予算審査特別委員会
- 9～13P 市政に対する一般質問(8名)
- 14～15P 常任委員会行政視察報告
- 16P 人事・議会の構成・編集後記

第9回 鬼小十郎まつり
(白石城)



発行/白石市議会 編集/議会広報委員会 ☎989-0292 白石市大手町1-1 ☎22-1351
<http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/site/gikai/>

再生紙を使用しています。



市長の提案理由説明

この施設は、生ごみからバイオガスの精製・発電・排熱による温水を活用する新エネルギーの実証施設として、平成15年4月に整備しました。

◎白石市生ごみ資源化事業
所条例を廃止する条例

条 例 等

審議した議案の主なものは次のとおりです。

平成27年7月、生ごみから発電するというモデル事業の目的は十分に達成されたことから休止し、それ以降、汚泥等の残留物の処理を終え、継続していた農業用施設の利用も本年5月に終了し、施設利用の一切が終了したことから、条例を廃止するものです。

9月定例会

平成27年度決算を認定
一般会計補正予算など16議案可決

平成28年9月定例会は、9月1日から9月16日までの16日間の日程で開催されました。市長提出議案は、人事1件、平成27年度各会計決算の認定等2件、条例等6件、予算6件の計15件でした。

定例会初日、第60号議案が提案され、表決の結果、全会一致で同意しました。

2日目、第61号議案及び第62号議案の質疑が行われ、決算審査特別委員会に審査が付託されました。

3日目、第63号議案から第74号議案の質疑が行われ、条例等6議案は表決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。予算6議案は予算審査特別委員会に審査が付託されました。

一般質問は、9月14日と9月15日の2日間で、8名の議員が質問を行いました。定例会最終日の本会議において、各委員長報告を行った後、表決の結果、いずれも全会一致で、認定、原案のとおり可決しました。

また最終日に、市長提出議案1件が追加提案され、表決の結果、全会一致で可決しました。（16ページをご覧ください。）

9月定例会で審議した議案

議案番号	件名	審議結果
第60号	市長提案 教育委員会委員の任命について	同意
第61号	平成27年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
第62号	平成27年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定について	原案可決及び認定
第63号	宮城県市町村等非常勤職員公務災害補償等認定委員会共同設置規約の変更について	原案可決
第64号	宮城県市町村等非常勤職員公務災害補償等審査会共同設置規約の変更について	原案可決
第65号	宮城県市町村職員退職手当組合規約の変更について	原案可決
第66号	宮城県市町村非常勤消防団員補償報償組合規約の変更について	原案可決
第67号	宮城県市町村自治振興センター規約の変更について	原案可決
第68号	白石市生ごみ資源化事業所条例を廃止する条例	原案可決
第69号	平成28年度白石市一般会計補正予算（第3号）	原案可決
第70号	平成28年度白石市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	原案可決
第71号	平成28年度白石市介護保険特別会計補正予算（第2号）	原案可決
第72号	平成28年度白石市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	原案可決
第73号	平成28年度白石市水道事業会計補正予算（第1号）	原案可決
第74号	平成28年度白石市下水道事業会計補正予算（第1号）	原案可決
第75号	平成28年度白石市一般会計補正予算（第4号）	原案可決

※意見（賛否）が分かれた議案はありませんでした。

予算

◎宮城県市町村等非常勤職員公務災害補償等認定委員会共同設置規約の変更について

◎宮城県市町村等非常勤職員公務災害補償等審査会共同設置規約の変更について

◎宮城県市町村職員退職手当組合規約の変更について

◎宮城県市町村非常勤消防団員補償報償組合規約の変更について

◎宮城県市町村自治振興センター規約の変更について

本年10月、「富谷町」が市制施行により「富谷市」になることに伴い、これらの規約で本市が構成団体の一つとなっている団体の規約を変更する必要があることから、地方自治法の規定により、議会の議決を求めるものです。

◎平成28年度白石市一般会計補正予算（第3号）

これまでの歳入歳出予算をそれぞれ5億7千247万1千円追加し、予算総額を172億3千541万3千円とするものです。主な内容は次のとおりです。

○幼児向け遊具設置事業
5千461万8千円

○介護ロボット導入促進事業
235万円

○武家屋敷茅屋根補修工事
402万5千円

○ドクターヘリランデブーポイント標識設置事業
516万8千円

○東北観光復興対策交付金事業
999万2千円

○観光施設整備事業（弥治郎こけし村）
540万円

○水道事業会計補助金
1億410万8千円

○下水道事業会計補助金
2千万円

◎平成28年度白石市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）

これまでの歳入歳出予算をそれぞれ1億4千253万8千円追加し、予算総額を46億9千67万4千円とするものです。

補正の主なものは、後期高齢者支援金等を減額する一方、国庫支出金返還金、介護納付金及び高額療養費等を増額するものです。

◎平成28年度白石市介護保険特別会計補正予算（第2号）

これまでの歳入歳出予算をそれぞれ1億4千167万3千円追加し、予算総額を40億7千955万1千円とするものです。

補正の主なものは、介護保険給付費返還金、一般会計繰出金及び介護保険事業財政調整基金積立金等を増額するものです。

◎平成28年度白石市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

これまでの歳入歳出予算をそれぞれ1千104万7千円追加し、予算総額を4億3千192万7千円とするものです。

補正の主なものは、歳入において、平成27年度決算に係る繰越金を増額するものです。

◎平成28年度白石市水道事業会計補正予算（第1号）

補正の主なものは、収益的収入において、他会計補助金1億410万8千円を増額し、収益的支出において、水道事業経営戦略策定業務や簡易水道漏水調査業務の委託料を計1千60万円増額するものです。また、資本的支出において、大鷹沢大町ポンプ場新設に伴う用地購入費108万8千円を増額するものです。

◎平成28年度白石市下水道事業会計補正予算（第1号）

補正の主なものは、収益的支出において、下水道事業経営戦略策定業務の委託料151万2千円を増額するものです。

また、資本的収入において、企業債及び他会計補助金を計2千290万円増額し、資本的支出において、福岡深谷地内マンホールポンプ工事や災害復旧工事の請負費を計2千305万5千円増額するものです。



大鷹沢大町ポンプ場買収予定地現地調査

本会議質疑より

◎平成27年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

〔質疑〕平成27年度の決算は、歳入決算額に対して、市税収入が2千900万円ほど減少している。

この決算を総括すると、どのような決算と見ているのか。

〔答弁〕一般会計は、190億円を超える過去2番目の規模であり、震災復興特別交付税の増が大きく反映していると考ええる。

平成27年度の決算は、固定資産税の市税収入が減少している。しかし、基金の取り崩しや市債の増額などにより歳入を確保しながら、東日本大震災により被災した公共下水道の復旧工事を初め、学校給食センター整備事業、また白石スキー場整備事業など、第五次白石市総合計画に示す

「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」を実現するために動いた決算だと考えている。

また、白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議に沿った各種施策を確実に実行した成果があらわれたものだと考えている。

〔質疑〕平成27年度の未収入金について、一般会計と特別会計で前年度より1千160万円ほど減少している。

この状況を、どのように分析しているのか伺う。

〔答弁〕未収入金の減少については、平成27年度からコンビ二収納を開始し、納められる環境が整備できたことにある。

しかしその状況で、市税収入が減っていることは、残念な結果と感じている。この結果を踏まえた上で、今後も負担の公平性から、しっかりと収納に努めていきたいと考えている。

◎平成28年度白石市一般会計補正予算（第3号）

〔質疑〕衛生費のドクターヘリランデブーポイント標識設置事業について、その内容を伺う。

〔答弁〕設置場所は市内11カ所で、設置する看板の大きさや素材、基準は県から指定はされていない。

この内容については、広報しろいし10月号でお知らせする予定である。

〔質疑〕商工費のみやぎおとぎ街道インバウンド推進事業と環蔵王インバウンド推進事業の委託料について、特に台湾へのプロモーションを意識した内容となっているが、その経緯と理由を伺う。

〔答弁〕新聞等でも報道されているが、東北六県で推進していること、さらに格安の航空機（LCC）が仙台空港に乗り入れをしていることがあげられる。

また、これまでも台湾の都市との交流があり、そのことを含めた上で、台湾という大

きな商業圏に宮城県・白石市として取り組んでいきたいと考えている。

〔質疑〕商工費の弥治郎こけし村太鼓橋架け替え工事の設計委託料について、その詳細を伺う。

〔答弁〕こけし村の入り口にある木製の太鼓橋は、平成6年に国の林業構造改善事業を活用して整備した橋である。

老朽化が進んだため、平成28年度に市町村総合振興補助金を活用して整備したいと考えており、詳細な設計書等が



架け替え予定の太鼓橋（弥治郎こけし村）

必要となる。そのため、測量から工法や材質なども検討していくことになる。

◎平成28年度白石市下水道事業会計補正予算（第1号）

〔質疑〕公共下水道事業災害復旧工事費の増について、その詳細を伺う。

〔答弁〕平成28年度に入り、新たに下水道管の被災箇所が、福岡蔵本地内で約100メートルほど発見された。

震災による影響であることが確認できたことから、復旧工事を行うものである。

〔質疑〕災害復旧工事については、多くが繰越事業となっているが、どの程度が終了しているのか伺う。

〔答弁〕現時点で判明しているものについては、すべて完了させたいと考え、現在、復旧工事を進めているところである。

決算審査特別委員会

第61号議案・平成27年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について及び第62号議案・平成27年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目（9月5日）の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員（小川正人）を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長・山谷清、副委員長・志村新一郎）は、9月7日及び8日の2日間にわたり審査を行い、表決の結果、全会一致で認定及び原案のとおり可決しました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

〔質疑〕広報広聴の生き生きメールで、市民からさまざまな提案・提言を受けているが、市政運営に反映させた提案・提言はどのようなものがあるのか伺う。

〔答弁〕市民からの提案・提言は33件で、主なものとして

「高齢者向けの温泉観光を推進してはどうか」「市街地の玄関口の東西南北各所に草花の植栽をしてはどうか」という意見を、関係各課に連絡して調整を図っている。

〔質疑〕花と緑のまちづくり事業について、平成27年度に奨励金を新設しているが、申請件数が1団体で、交付額が3万1千円と少ない。

この奨励金申請に、どのくらい期待していたのか伺う。

〔答弁〕花と緑のまちづくり奨励金は、予算額70万円で予算の半分くらいを目標に努力をしていたが、実績は1件のみであった。ホームページや広報しろいしで周知はしてきただが、認知度が低くPR不足であったと考える。

そのため、オープンガーデンにご協力いただいている方々に声かけをして、奨励金の活用をお願いしてきた。

しかし、庭づくりは個人の力でやりたいとお断りされている。それ以外にも、個人2件と団体1件の計3件の相談はあったが、申請までには至らなかった状況である。

〔質疑〕スパッシュランドしろいし費について、平成27年度はイベントも多く開催し、来館者も1千265人増えているが、売り上げ収入が減っている。その詳細を伺う。

〔答弁〕日帰り利用が多く、合宿などの宿泊での利用が、前年度対比で234人減である。そのため、宿泊料収入が減少している。

レストラン収入は、宿泊利

用の減少や日替わり弁当の売り上げも減少しており、前年度対比で84万5千997円の減となっている。

物販収入は、前年度対比で65万1千459円の減となっている。売れ筋商品の販売減少と新商品への購入に結びつかなかったものと考えている。

現在でも、商品に健康食品を加えたり、レストランのメニューを変えるなど、いろいろと試行錯誤しながら検討しているところである。

民生費

〔質疑〕高齢者福祉事業の高齢者タクシー利用助成事業について、104人に利用券が交付され、交付枚数は3千132枚となっている。しかし、利用枚数が1千309枚と少ないが、この利用状況をどのように考えているのか伺う。

〔答弁〕この助成事業は、1カ月当たり3枚で一人当たり36枚交付している。対象者は、65歳以上で要介護3から5の

認定を受けた方と市民税非課税の方に交付をしている。利用状況については、必要な場合に使われているものと考えている。

〔質疑〕ファミリーサポートセンターの運営状況について、前年度と比較して会員数や援助活動件数などが減っているが、決算額は36万円ほど増えている。その理由について伺う。

〔答弁〕講演会等の回数に変わりはなく、講師への謝礼などが増えたためである。

〔質疑〕子育て支援事業の誕生祝い金とすくすくベビー券贈呈事業について、その利用状況を伺う。

〔答弁〕誕生祝い金の利用実績は、把握していない。

すくすくベビー券については、毎月、指定薬局からの請求書で確認している。平成28年3月末現在で、贈呈額79万2千円に対し、支出額は62万8千円である。贈呈人数198人のうち157人が利用している。

〔質疑〕生活保護事業について、本市の被保護世帯数は205世帯であるが、その内訳を伺う。

〔答弁〕高齢者世帯は131世帯で全体の63・9％、障害者世帯が22世帯で10・7％となっている。

衛生費

〔質疑〕県補助金が1億5千万円ほど減収となっているが、その詳細について伺う。

〔答弁〕平成26年度において再生可能エネルギー等の導入補助金があり、この補助金を活用して防災拠点の各地区公民館に太陽光のパネルを設置しており、平成27年度においては、その補助金がなかったことから減収となっている。

商工費

〔質疑〕観光振興事業のみちのく真田ゆかりの地観光振興協議会の事業について、PRのウェブサイトをつくっているが、今後、どのように展開をしていくのか伺う。

〔答弁〕今後も引き続きウェブサイトを更新しながら3市町（秋田県由利本庄市・蔵王町・白石市）の真田ゆかりの地のPRに努めていきたいと考えている。

土木費

〔質疑〕白石沖西堀線街路事業について、文化財本調査・埋蔵文化財発掘調査を行っているが、どのようなものが出土したのか伺う。

また、この文化財調査はいつまで行うのか。

〔答弁〕調査区域は、白石興

産株式会社付近で、遺跡は大畑遺跡がかかる部分である。出土品の内容は、奈良・平安時代の水路跡、柱が建っていた穴の形跡、畑の痕跡と素焼きの土器などが数点出ている。

この区域に大きな遺構の遺跡はなかったため、調査は終了しているが、現在、白石駅前側からの文化財調査を実施しており、12月中に終了する予定である。

〔質疑〕文化財調査が12月中での終了となる場合、この街路事業は、年度内に完成するのか伺う。

〔答弁〕工事については、本年7月に発注しており、年度内の完成を目指している。

〔質疑〕白石駅前等駐車場運営事業について、白石駅前駐車場の使用料収入の中から、商店街活性化対策事業に57万8千69円が助成金として支出されている。

そこで、白石蔵王駅等の駐車場使用料の収入を活用して、

さらなる商店街活性化対策事業を進める考えはないのか伺う。

〔答弁〕商店街活性化事業の助成金は、白石市駅前駐車場の使用料収入から維持管理経費や工事の償還額を差し引いた金額を、商店街の活性化を図るため、白石市商工会議所に助成しているものである。

白石駅前以外の駐車場の使用料の収入は、それぞれの駐車場に係る維持管理経費等に充当している。

維持管理経費に充当できなかったものについては、駐車場周辺の環境整備、特に、平成27年度は、行幸啓の際に白



決算審査特別委員会の現地調査（白石沖西堀線）

石駅前駐車場に隣接した市道の整備を初め、市民や観光客の利便向上のための財源として活用している。

また、駐車場整備の経費については、平成26年度に白石蔵王駅東口駐車場の整備に約594万円活用している。

平成28年度に実施する西口駐車場の整備には、約1千70万円の事業費を要するが、駐車場使用料を活用している。

〔質疑〕子育て応援住宅整備事業について、現在の子育て応援住宅の入居状況を伺う。

〔答弁〕子育て応援住宅で最初に募集した南側の棟は、現在16世帯が入居している。そのうち、新たに入居した子育て世帯が11世帯である。

北側の棟は、当初から入居している6世帯である。

教育費

〔質疑〕学校給食センター運営状況について、東京電力福島第一原子力発電所事故によ

る放射能の影響で、地場産物の使用が限られたとあるが、その状況を伺う。

〔答弁〕タケノコやシイタケがいまだに出荷制限を受けており、使用ができない状況にある。

企業会計

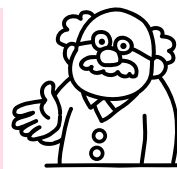
〔質疑〕上水道事業の有収率が73・22%と、平成26年度から1・84%減少している。震災等での破損箇所を修理してきたと考えるが、悪化した理由について伺う。

〔答弁〕有収率については、今後、水道事業を継続する上で非常に重要な問題だと認識している。

当初は、震災による影響が非常に大きいのではないかと考え、3年間で163キロメートルの漏水調査により、11か所の漏水発見と修繕を進めてきた。

しかし、その結果としてこの数字であることは、非常に重く受けとめている。

漏水調査は、今後も着実に実施していくが、ほかの原因を探っていかなければならないと考えている。配水メーターやポンプ場などの施設、さらにその中間地点での漏水などの総点検を行っていく必要があると考えている。



行幸啓とは？

行幸啓とは、天皇・皇后両陛下がご一緒に外出されることです。

平成27年6月17日に、白石市（国立花山青少年自然の家南蔵王野営場）と蔵王町（北原尾地区）をご訪問されました。

有収率とは？

有収率とは、市内の給水区域内に配水している水量と実際に使用し、料金として収入のあった水量との割合を示しているものです。

予算審査特別委員会

第69号議案・平成28年度白石市一般会計補正予算（第3号）から第74号議案・平成28年度白石市下水道事業会計補正予算（第1号）の計6議案について、定例会3日目（9月6日）の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長・佐藤秀行、副委員長・佐藤聡二）は、9月7日に現地調査を行った後、9月9日に審査を行い、すべての議案について、表決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

◎平成28年度白石市一般会計補正予算（第3号）

総務費

〔質疑〕文化体育活動センター費について、キューブ外壁のガラスが破損したとのことだが、その状況と対策について伺う。

〔答弁〕原因については、何者かの投石による影響で破損したと考えている。施設内にある監視カメラ等での原因究

明と白石警察署への被害届を提出しているが、具体的な原因は確認できなかった。

今後、引き続き夜間の監視カメラを継続するとともに警察署に巡回パトロールを依頼している。

〔質疑〕武家屋敷の屋根補修工事について、屋根の南側・西側の補修であるが、北側・東側の補修は必要なのか伺う。

〔答弁〕全体的に、屋根の損傷やコケなどにより傷んでいる状況である。今回は、特に7

傷みの激しい南側・西側を補修するものである。

今後、残りの箇所についても修繕が必要になってくると考えている。

民 生 費

〔質疑〕介護ロボット事業について、どのような生活支援の介護機能を持つロボットなのか伺う。

〔答弁〕今回、国への申請により内示を受けた事業者は3事業者で、その内容は次のとおりである。

①見守り支援ベッド

ベッド内の内蔵センサーで介護される方の動作を検知し、発信機で介助者に知らせる機能を持つベッド

②マッスルスーツ

装着型の補助装置で、介助者が直接身につけ筋肉をサポートし、腰の負担を3分の1に軽減する装置

③歩行アシストカート

坂道での移動をサポートしたり、横流れ防止のブレーキ

キが内臓されており、安全で快適な走行をサポートするカート

衛 生 費

〔質疑〕ドクターヘリランデブーポイントの標識等の詳細について伺う。

〔答弁〕標識は、設置場所毎に大きさは変わる予定であるが、基準として横1.5メートル縦90センチで、カプセルブルーム型の標識板である。

表示内容については、「ドクターヘリ離着陸場」であることを表示し、注意点として、ここはドクターヘリの臨時離着陸場ランデブーポイントに指定されており、「離着陸の際は大変危険です」、「安全確認には十分に気をつけてまいります。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。」という内容を記載し、宮城県と白石市の名称とマークを入れたものとなる。

〔質疑〕離着陸場の環境整備として、県では舗装について

の予算を計上しているが、市で舗装は行わないのか伺う。

〔答弁〕ランデブーポイントは、各小学校・分校・緑地公園・野球場であり、舗装できない場所となることをご理解いただきたい。

スパシユランドしろいしや白石スキー場の駐車場については、舗装されているため、そのまま使用することになると考える。

◎平成28年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

〔質疑〕国民健康保険事業財政調整基金の今後の運用について伺う。

〔答弁〕基金については、平成28年6月末現在で7億3千85万2千773円の残高となっている。

補正予算にも計上しているが、医療費の高度化や高額薬剤の使用により、高額療養費の増額と医療費が抑えられない状況にある。

また、平成30年度より国保の県単位化が開始されるが、

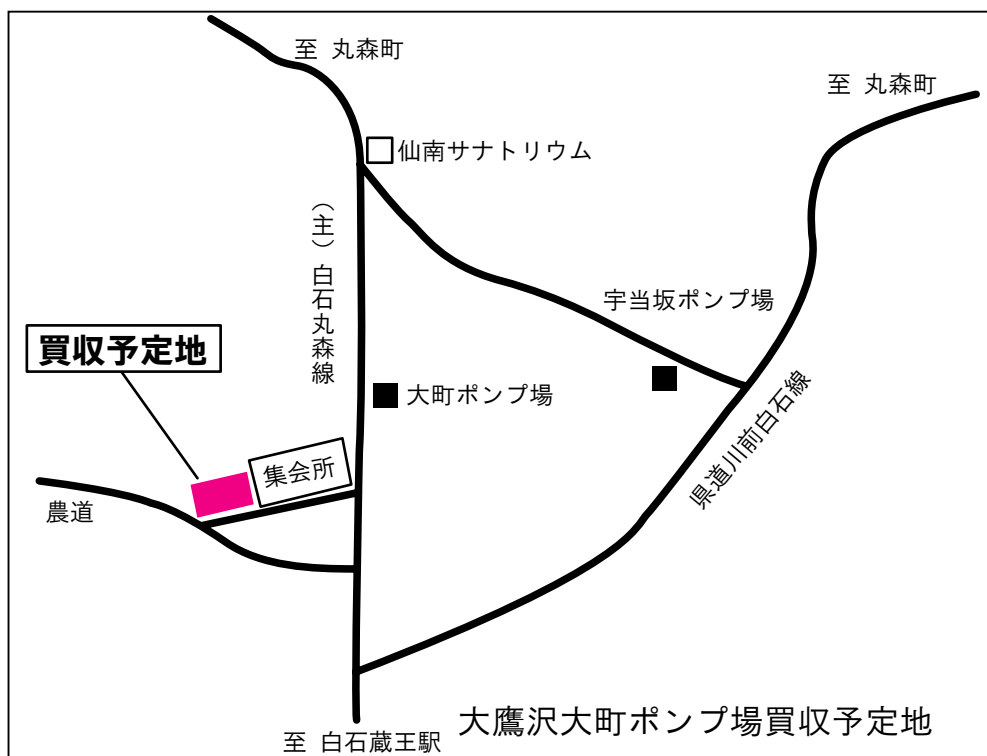
現在、納付金の動向が不明な状況である。

平成28年度において課税方式を変更しているが、現時点では基金はそのまま基金として活用する予定である。

◎平成28年度白石市水道事業会計補正予算(第1号)

〔質疑〕大鷹沢大町ポンプ場新設に伴う用地買収費について、この購入金額の基準単価について伺う。

〔答弁〕現在、県道の改良工



事が行われており、その買収実績をもとに算定している。

〔質疑〕購入する土地の地盤について、どのような強度なのか、地盤の状況について伺う。

〔答弁〕地盤調査は、現時点では行っていない。東日本大震災においても近隣の家屋等に大きな被害も見られないことから、不安定な地盤ではないと考えている。

施設はポンプ場のため、地下に掘り下げての基礎をつくることになり、用地買収後に、地盤調査等を行い対応していきたいと考えている。

◎平成28年度白石市下水道事業会計補正予算
(第1号)

〔質疑〕下水道事業経営戦略策定業務の委託について、その詳細を伺う。

〔答弁〕現在、下水道事業は非常に経営的にも厳しい状況が続いている。将来の世代につないでいくためには、長期的観点からの経営が必要となる。そのため、下水道事業を

将来にわたり安定的に継続するための経営戦略を策定するものである。

議会を傍聴してみませんか！

12月定例会は、12月5日（月）午前10:00開会予定です。

定例会は、年4回（2月・6月・9月・12月）開催されます。市の予算や決算、条例など、市民のみなさんに深く関わりのある議案が審議されます。

また、市議会では、インターネットによる中継を行っています。議場で行われる本会議（議案審議・一般質問など）や予算審査をライブ中継や録画映像で視聴できます。

●9月定例会の傍聴者数 22人 ●ライブ中継の合計視聴者数 658人

市政に対する一般質問

〳〳〳8名の議員が質問〳〳〳

9月定例会の一般質問は、9月14日・15日の2日間にわたり行われました。質問の要旨は次のとおりです。

伊藤 勝美 3期12年にわたる市政運営について

四竈 英夫 市長の引退について

松野 久郎 学校統合の準備としたICT（情報通信技術）の導入について

菅野 恭子 季節性インフルエンザ予防ワクチン接種の助成拡大について

佐藤 秀行 学校におけるICT環境の整備等について

大野 栄光 台風災害について

佐藤 聡一 本市での熊出没について

佐藤 龍彦 市民のコミュニティの場づくりについて

他 他 他 他 他 他

3期12年にわたる市政運営について

伊藤 勝美



【質問】風間市政12年間を振り返っての検証を伺う。

【答弁】【市長】就任当初より「共汗・共学・共生」を基本理念として、市民総参画によるまちづくりを目指し、年ごとの目標を掲げ歩み続けて今があると考えている。

また、市民とともにまちづくりを進め、歩んでくることができたと考えている。

【質問】12年間で、一番努力して、一番印象に残っているのは何か伺う。

東日本大震災があげられる。
震災から復旧・復興のため、職員とともに全力で努めてきたと自負している。

◎市道の維持管理について

【質問】人家の数が少なく、交通量も少ないような場所の除草作業の対応がおろそかになっていると考えるが、除草作業が必要な箇所をどのように把握しているのか伺う。

【答弁】【市長】道路パトロールや市民・利用者からの通報等により確認している。連絡があれば、現地調査を行った上で対応している。

【質問】道路の除草作業も大切だが、最近、

道路の上に覆いかぶさるように樹木の枝が伸びており、高さのある車両にとっては交通障害になるところが見受けられる。

このような市道の状況について、どのような対策をされているのか見解を伺う。

【答弁】【市長】市道脇の私有地から張り出している樹木は、土地所有者に所有権があり、市では、剪定や伐採ができないという現実がある。

現在、そのような場所が見つかった場合、土地所有者や自治会長に確認・相談しながら、樹木の所有者に適切な管理をしていただくようお願いをして対応している。

【その他の質問】

◎救命救急について

◎子供の犯罪防止について

市長の引退について

四 竈 英 夫



本年6月に市長は、今期限りで引退することとを表明した。そこで、あらためてその心情等について伺う。

【質問】3期12年の市政の中で、特にうれしかったこと、感激したこと、喜ばしかったことは何か伺う。

【答弁】【市長】震災からの復旧・復興は言うまでもないことである。

また、姉妹都市の登別市と海老名市との友好関係が一層深められたことが挙げられる。

さらに、三市の自治会が相互連携協定を締結したこと、三市の青年会議所が姉妹JCを締結したことなどにより、さらにトライアングルの交流の輪が広がってきたことはうれ

しいと感じている。

【質問】悲しかったこと、残念だったこと、悔が残ることは何か伺う。

【答弁】【市長】やはり東日本大震災に尽きる。その中でも、東京電力福島第一原発事故に対して、国が県境で線引きをしたこと。そして、損害賠償がいまだに支払われていないことである。このことは、悲しいというよりも残念であり、強い怒りを覚えている。

【質問】任期中になし得なかったことは何か伺う。

【答弁】【市長】方針に掲げた「4万人都市復活」がなし得なかったことである。人口が減少する中、それなりの歯止めをかけてきたと自負している。

しかし、最終的に市の人口を4万人という

数字に戻せなかったことが残念である。

【質問】次期指導者に何を期待し、何を望むか伺う。

【答弁】【市長】人の話しを聞くこと、そして何よりもうそをつかないことである。

また、特定の個人のためではなく、市民のため、白石の発展のために取り組んでほしいと考えている。

◎有害獣対策について

【質問】獣よけの花火は、年間に1世帯1回で、6本が無償で配付されているが、これでは足りないという農家が多い。

そこで、配付本数を増やし、負担軽減を図れないか伺う。

【答弁】【市長】申請の件数は減少している。現在、被害状況や申請状況、予算的なことを考慮して検討している状況である。

学校統合の準備としたICT (情報通信技術)の導入について

松野 久郎



離島などの遠隔地において、非常に有効なものと考えている。

【質問】統合準備委員会も立ち上がり、検討事項として、小さな学校の児童生徒はうまくなじめるか、肩身の狭い思いをしないか。また、統合時の中学3年生に対しては、環境の変化も含め格段の配慮が必要と考える。その準備として、事前の交流活動が大切と考える。

そこで、ICTを活用して、離れた空間と空間を臨場感を持ってつなぐことができるシステムを導入することで、移動のロスもなく、交流活動ができる。ぜひ導入を検討してはどうか伺う。

【答弁】【教育長】統合する学校交流活動に活用することは必要であるとは考えるが、特に

応において、市の基準があるのか伺う。

【答弁】【市長】自然災害の被災調査を行い、原形復旧が原則となる。

従来の機能が維持できるように、生活道路の確保を最優先に実施している状況である。

【質問】同じ場所が何度も繰り返し災害を受けている場合、一時的な復旧工事ではなく、長期的に災害が発生しないように対応する必要があると考えるが、見解を伺う。

【答弁】【市長】そのとおりである。現在は、原形復旧が基本であるが、繰り返し発生した場所については、災害原因を踏まえて工法を検討し、災害を防止する必要があると考える。

【その他の質問】◎白石フリーWi-Fiエリアの拡大と光回線の通信サービスが導入されない地域への対応について

【質問】異常気象に伴い、台風や集中豪雨等で災害が発生している。その復旧や修繕の対

季節性インフルエンザ予防ワクチン接種の助成拡大について

菅野 恭子



【質問】本年6月の定例会において、5月26日の報道発表を示し、

「県は、子ども医療費の市町村への県助成を拡充すると述べているが、実施されれば本市の負担減少になる。

この分の財源を、季節性インフルエンザ予防ワクチン接種の助成拡大に向けた検討をすべきでないか」の旨の一般質問をした。

これに対し市長は、「県の子ども医療費の助成拡大の内容が明確になれば、市の財政等を見据え、優先順位を踏まえた上で検討していきたい。」という旨の答弁をしている。

県は、8月19日に子ども医療費の助成拡充内容を明確にし、各自

治体が平成29年度当初予算編成に反映できるように、8月31日に説明会を行っている。

ここまで明確に示されたのであれば、本市の予防ワクチン接種の助成対象を、接種可能な年齢から中学3年生までに拡大することを前向きに検討すべきと考えるが、見解を伺う。

【答弁】【市長】県の説明会は8月31日であり、本日(9月14日)までの期間では検討できない状況である。

そのため現時点では、6月定例会で答弁したとおり、この予防接種は重症化予防と考え、引き続き、中学3年のみの助成として感染予防を重視していきたいと考えている。

◎犯罪被害者支援条例の制定について

【質問】平成17年4月、犯罪被害者等基本法が施行され、国と地方公共団体は、それぞれ被害者支援に取り組む責務があると明記した。

犯罪に巻き込まれた人や家族は、心身ともに傷つき、平穏な暮らしに戻れるまでさまざまな支援が必要である。

すでに、この法律を受け条例を施行している自治体では、「見舞金の支給」「住居確保・日常生活の支援」等の施策に取り組んでいる。

本市でも、犯罪被害者支援条例の制定を検討していくべきと考えるが、見解を伺う。

【答弁】【市長】市内の犯罪被害者の状況を関係機関と十分に精査した上で、条例制定が必要かどうかを判断するようになると考える。

【その他の質問】◎災害時食糧備蓄のアレルギー対応について

学校におけるICT環境の整備等について

佐藤 秀行



〔質問〕県総合教育センターで作成されたタブレット端末活用動画集「十（プラス）タブレット」が、学習デジタル教材コンクールで「文部科学大臣賞」を受賞した。

この動画集のコンテンツとコンクールの目的等について伺う。

〔答弁〕【教育長】この「十（プラス）」は、教員のICT活用指導力を目指して作成した教員用の活用動画集である。

その目的は、学校教育におけるデジタル機器の活用と教育の情報化の進展に貢献するといったものである。

〔質問〕今年度、タブレット端末82台が各小中学校にそれぞれ何台ずつ配備されたのか。

また、今後増やす計画はあるのか伺う。

〔答弁〕【教育長】各学校に基本2台で、さらに、児童生徒数に応じて傾斜配分をしている。

現段階では、活用状況をしながら、各学校にあるパソコンの更新時期等を踏まえて考えていきたい。

〔質問〕研修等のためにも、先生方にタブレットを1台ずつ配備することが望ましいと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕【教育長】今のところは考えていない。その前に、教員のタブレット活用能力をもう少し上げていく必要があると考える。

〔質問〕各小中学校のすべての教室に電子黒板等を設置するなど、さらなる学習環境の整備が必要と考えるが、

見解を伺う。

〔答弁〕【教育長】将来的に、各学校に授業形態に応じて1学級が行えるような台数整備ができればと考える。

〔質問〕今後のICT活用指導力の向上を目指す研修への取り組み・推進について伺う。

〔答弁〕【教育長】専門研修員の先生も活用しながら、コンピュター活用推進委員会を組織して進めている。

◎市道白石駅歩道橋線について

〔質問〕白石駅歩道橋線は、だいぶ老朽化が見られる。駅前の環境整備・美化等のためにも今後どのように進めていくのか伺う。

〔答弁〕【市長】昨年度、白石駅東西自由通路検討グループを設置した。駅舎との一体化の方向性で検討しているが、いろいろ課題もあるため、今後検討を続けていく。

台風災害について

大野 栄光



本年8月、三つの大きな台風が通過した。山麓に降った大量の雨は鉄砲水となり、道路を決壊し、木をなぎ倒し流木となり民家や橋を壊し、介護施設の近くまで流れ着いた。

大きな施設災害を市内で発生させないための災害対策について伺う。

〔質問〕市道三住線の橋に流木が堆積し、橋を壊し、道路が寸断された。500メートル下流には介護施設や民家があり、自力避難のできない人たちがいる。

そばの小さな橋は、間口が狭く、流木が流れ着いたら一気にダム化すると思われる。介護施設は平屋で、

避難場所もなく被害が予想されるが、対策などの所見を伺う。

〔答弁〕【市長】この施設でも、それぞれ避難マニュアルがあり、どのような避難に対応しているのが大切であると考えている。

また、地元消防団の河川巡回による水位監視の情報により、的確な判断をすることが不可欠であると考えている。

その上で、避難準備情報や避難勧告等の発令を、いち早く施設の長や自治会長に連絡して、指定避難所への避難を呼びかけている。

今後、そのようにしていくことが大切であると考えている。

〔質問〕今回被害にあった市道三住線大岩橋と市道金成線は、農作業

道として重要な生活道でもある。

そこで、早期復旧が望まれるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】今回被災した両市道については、国の災害復旧事業の災害査定を受けるため、提出資料等の準備を進めている。

一日も早い復旧と市民生活の正常化に向け、鋭意取り組んでいる。

◎自主防災組織について

〔質問〕自分たちの地域は自分たちで守る趣旨のもと、自治会長を先頭に組織された自主防災組織は、大震災以降、地域活動を多岐にわたりに行ってきた。

そこで、災害時の活動の身の安全補償はどのようにになっているのか伺う。

〔答弁〕【市長】万が一の場合、市が加入している賠償保険で保険金等が支給されることになる。

本市での熊出沒について

佐藤 聡一



【質問】今年度、市内での熊の目撃情報は何件あったのか伺う。

【答弁】【農林課長】8月末現在で39件、9月も4件である。すでに平成26・27年度を超えている状況にある。

【質問】現在、熊が出没した地域では、どのような方法で告知を行っているのかを伺う。

【答弁】【市長】しろいし安心メールの配信、チラシの配布、追い払い花火の打ち上げ、看板の設置、小・中学校への情報提供を行っている。

【質問】しろいし安心メールは、速報性がある方法である。しかし、メールを利用していない方もいる。

そのため、音による

追い払い効果も期待できる広報車を活用して、目撃現場周辺でお知らせを行なってはどうか、所見を伺う。

【答弁】【市長】広報車での周知も有効であり、今後検討していく課題であると考えている。

◎新しくなった市のホームページについて

【質問】閲覧数の変化を伺う。

【答弁】【総務部長】今年度は、月に約3万件を超えている。昨年度は約2万件であり、リニューアル後の効果が出ていると考える。

【質問】市民から情報量が減ったのではないかと、以前あった資料が見つからないとの意見をいただいた。実際の状況を伺う。

【答弁】【総務部長】移行作業の中で、各課のページをすべて再点検を行い、古い情報など移行しなかったものもある。

今後は、必要な情報、あると便利な情報をお知らせしていただき、より使いやすいホームページにしていきたいと考える。

【質問】催事の告知花火の情報について、どこで何をやっているのかを知ることができれば、その催しへ足を運ぶ人も増え、活性化につながるかと考える。市のホームページに掲載できないのかを伺う。

【答弁】【市長】打ち上げられるすべての花火が届け出されているとは限らないのが実情であり、情報が手に入らず難しいことだと考える。そのため、現在のホームページに掲載することはできない。

【その他の質問】◎交流人口の拡大について

市民の「コミュニティの場」について

佐藤 龍彦



【質問】市民が生き生き暮らすためには、地域コミュニティが重要と考えるが、市長の見解を伺う。

【答弁】【市長】地域コミュニティを構築していくことは、生きていく上では、大変重要なことと考えている。

【質問】高齢化は、市の中心部でも深刻になってきていると実感を持たれている市民も多くいる。商店街に人の姿が余りないことに、白石のまちは年々寂しくなるとの市民の声も多く寄せられている。

そこで、高齢者・若者・子どもたちが「立ち寄れる場所」「集まれる場所」づくりのため、市が空き店舗を活用し

たカフェやサロンなどを商店街に開設してはどうか伺う。

【答弁】【市長】市では現在、支え合いのまちづくりを目指す生活支援体制整備事業の中で、地域づくりの重要性について、市民への啓発を進めている。

また、介護予防事業として、運動を中心とした地域の通いの場の立ち上げ支援、ふれあいサロンの支援などを行っている。

しかし、必要なサロンは地域ごとに異なるため、住民の力で立ち上げていくことが重要と考えている。

【質問】地域交流の場として運営している「ふれあい・いきいきサロン」は、市が社会福祉協議会に委託している事業である。

その目的は、市内において、市民ボランティア等が開設運営するふれあいサロンに対し助成し、生きがいづくり・社会的孤立感の解消・健康増進など、地域における福祉コミュニティづくりの促進を図るとされている。

そこで、「ふれあい・いきいきサロン」の現在の課題について伺う。

【答弁】【市長】課題は、男性の参加が少ないこと、サロンが38カ所しかないことである。

【質問】市民のコミュニティづくりを、今後どのように進めていく必要があるか伺う。

【答弁】【市長】行政だけではなく、市民、地域、そして議員の皆さんのそれぞれの支援が必要不可欠であると考える。

常任委員会行政視察報告

市議会では、市政の課題などに取り組むため、本年7月、先進的な事業に取り組む自治体の行政視察をそれぞれの常任委員会（委員数各9名）で行いました。

今回の行政視察を通じて得た各市の事業内容については、今後各市議会や常任委員会として、さらなる市政の発展に取り組んでまいります。

総務産業建設常任委員会

◎神奈川県海老名市 ●スマートフォンによる観光 情報提供事業

海老名市のにぎわいづくりのため、えびな元気にぎわい検討会において基本構想を策定し、その中で来訪者の市内回遊促進を目的に、公式アプリ「えびな元氣ナビ」を平成27年10月より開始しました。

4力国5言語に対応した観光案内が可能で、観光地・飲食店、トイレ・授乳室・A E

Dなど約1千件の情報が登録されています。

また、防災ナビ機能が付いており、情報を受信すると、画面が避難画面に切り替わり、地震情報や最寄りの避難所情報が提供されます。

●総合窓口の導入と民間委託の取り組み

人口増加や市民のニーズ変化に対応するため、平成24年5月より総合窓口の運用を開始しました。その後、さらなるサービス向上や効率化のため、「市民総合窓口」「福祉総合窓口」を順次、民間への委託を行いました。

その特色は、①市民総合窓口と福祉総合窓口のエリア分け、②受付番号発券機の導入やコンシェルジュの配置、③窓口を色分けし、目的別に表示、④待合スペース・共有部分面積の拡大、⑤事務室内の省スペース化、⑥キッズスペース・授乳室の設置、稼働式カウンターの採用などで、市民の高い評価を得ています。



海老名市での行政視察研修

◎長野県塩尻市

●センサーネットワークによる鳥獣被害対策事業

塩尻市では、平成24年に国の事業を活用したICT事業として「センサーネットワーク」による鳥獣被害対策事業に取り組みました。

被害耕地面積が85%であった北小野地区に導入し、1年目で被害面積が20%に減少、2年目には若干の侵入のみで被害はゼロとなりました。

対策には、金網やトラロープによる侵入防止とあわせて、獣検知センサーや檻アニマル

センサーなどの機器を活用し、地元農家や猟友会の携帯メールへ瞬時に獣出没情報が提供され、「必要なときに必要な場所に駆けつける」という利便性の高い仕組みになっています。

◎長野県上田市

●大河ドラマ「真田丸」を活用した観光事業の取り組み

上田市では、「真田丸」の放送が決定してから、これまでの真田関連の観光事業との相乗効果で、さらなる誘客を目指したさまざまな事業を展開しています。

NHK大河ドラマ真田丸上田市推進協議会を中心に、官民が連携した観光事業、県内外自治体との共同の観光事業、NHKとのタイアップ事業、JRとの連携など、広域的な連携による取り組みが行われています。

また、今年の「上田真田まつり」には、ドラマの出演者が武者行列に参加したり、1月に開館した大河ドラマ館は、6月時点で、来場者が40万人を突破するなど、真田丸を契機として、多くの観光客が訪れています。

●耕作放棄地対策事業としての ワイン用ブドウ団地、農 産物直売所

耕作放棄地（約25ヘクタール）の地元住民の協力のもと、企業の進出により、約21ヘクタールがワイン用ぶどう団地へと再生されました。

ぶどうの収穫量は80トン以上で、生産されたワインは、国内外のコンクールで金賞を受賞するなどの高い評価を得ています。

また、収穫作業体験やワイン試飲会、あまった土地を活用した地元小学生によるシャガイモや蕎麦の栽培なども行っており、地域の活性化にもつながっています。

農産物直売加工センター「あさつゆ」では、生産者名の入ったバーコードにより1時間おきに売上データがメールで配信されます。生産者は、販売状況を見ながら、必要に応じて搬入を行っています。

このような販売上の特徴から売り上げを順調に伸ばしています。

また、平成27年度からは、食の安全・安心の向上ため、薬品残渣の抜き打ち検査を実施しており、消費者からも好評を得ています。

厚生文教常任委員会

◎北海道三笠市

●小中一貫教育(コミュニティスクール)

三笠市では、平成23年度に学校統合(小学校は5校からへ2校、中学校は3校から2校)を実施しました。

地域事情が異なる地区が同じ学区となり、地域連携の希薄化が懸念されたため、地域住民が関わりやすい環境づくりとして、文部科学省から2年間の研究指定を受け、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)を北海道内で初めて導入しました。

この協議会は、教育活動がスムーズに展開されるよう地域住民が中心となり、教育活動に協力していく組織で、法的な権限と責任を有するものです。

また、小中一貫教育を市内すべてで展開し、「人間性豊かな児童生徒の育成」と「地域に開かれた学校づくり」を推進しています。

学年区分を2・3・4年制にし、中一ギャップの解消、中学校英語科へのスムーズな接続など、小学校と中学校のカリキュラムの無理のない接続を図っています。

◎北海道北広島市

●土曜授業

北海道内では、学校教育法施行規則の改正や、国の土曜日の教育活動の推進方針を受け、土曜日の豊かな教育環境の構築が進んでいます。

北広島市では、開かれた学校づくりをさらに推進するため、平成27年度から土曜授業を開始し、現在、年2回実施し、すべての授業時間を公開しています。

特徴的な取り組みとして、保護者を対象とした「携帯電話安全教室」や地域住民や企業による「昔あそび」「バタ作り」「白杖体験」「化石のレプリカ作り」などを実施しています。

●エコミュージアム構想

北広島市は、特筆すべき遺産が数多く存在しており、伝統的なものが失われていくことが危惧されていました。

しかし、郷土資料館のような核的施設がなかったため、ある一定の文化圏を構成する地域の生活・自然・文化などの発展過程を遺産として現地で保存・育成・展示するため、エコミュージアム(野外博物館)構想を策定しました。

平成26年7月、旧広葉小学校が交流センターとして生まれ変わり、その中に「エコミュージアムセンター・知新の駅」をオープンさせ、文化・歴史遺産等の収集・発信・提供・展示等を行っています。運営は、住民参加を原則とし、普通の博物館と違い、コアと呼ぶ中核施設と、文化・産業などの遺産を展示するサテライト、新たな発見を見出す小径(デイスカバリートレイル)を配置し、来訪者が地域社会をより積極的に理解する形で行われています。

事業内容は、人づくりにつながる市民大学の運営、地域遺産発見バスツアーや体験教室などのソフト事業と施設設備などを行うハード事業を行っています。

◎北海道登別市

●高齢者等の福祉施策(認知症支援)

登別市の高齢化率は33・6%、今後も人口減少と高齢化が進むと予想されています。「安心して老いを迎えることができるまちへ」を登別版地方創生としています。

登別市では、認知症支援事業として認知症高齢者等GP



登別市での行政視察研修

S貸与事業(平成27年度開始)を実施しています。

その目的は、認知症高齢者等を介護している家族が安心して介護できる環境にすることです。長時間の捜索で発見できない場合、生命の危険につながるため、はいかいの恐れがある方の衣服や持ち物にGPS機器を装着し、家族等が携帯電話等のGPS機能を活用して捜索するものです。行方不明時は、まず家族等が10分程度捜索し、見つからない場合、家族からの通報によりSOSネットワークシステム(平成24年度開始)をあわせて活用し、捜索を行うことで、早期発見につながります。

また、ネットワークの構築を目的に、はいかい模擬訓練(平成26年度開始)を、市内3つの包括支援センターで同時に実施しています。

はいかい高齢者役(センター職員)の特徴を統一し、SOSネットワークシステムを利用して情報を配信し、目撃情報の通報により早期発見に努めています。

人 事

9月定例会において、次のとおり選任・推薦することに同意しました。

〔教育委員会委員〕

（任期：平成28年10月1日～平成32年9月30日）

高橋 久氏

議会の構成

議員辞職に伴い、白石市外二町組合議会議員及び議会運営委員会委員に欠員が出たため、9月定例会初日に、白石市外二町組合議会議員の補欠選挙と議会運営委員会の補欠委員の指名が行われました。

なお、現在欠員となっているその他の委員会等については、市議会議員の補欠選挙後に開催される議会で選出される予定です。

白石市外二町組合議会議員 （刈田病院議会議員） （7名）

補欠選挙の結果、志村新一郎議員が組合議会議員に選出されました。

新たな白石市外二町組合議会の議員は、次のとおりです。

議員	伊藤勝美
議員	平間知一
議員	四電英夫
議員	佐藤聡一
議員	佐藤秀行
議員	松野久郎
議員	志村新一郎

議会運営委員会 （7名）

議長より補欠委員に菅野恭子委員が指名され、その後、委員会を開催し、副委員長の互選が行われました。

互選の結果、佐藤秀行委員が副委員長に選出されました。

新たな議会運営委員会の委員は、次のとおりです。

委員長	志村新一郎
副委員長	佐藤秀行
委員	保科善一郎
委員	伊藤勝美
委員	澁谷政義
委員	菅野恭子
委員	松野久郎

◎平成28年度白石市一般会計 補正予算（第4号） （定例会最終日提案）

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ1億3千900万円を追加し、予算総額を173億7千441万3千円とするものです。

台風7号・9号・10号により被災した公共土木施設などの災害復旧に係る費用や、議員辞職に伴う市議会議員補欠選挙に係る費用を計上しています。



台風被害にあった市道不忘みのわ線(左側)と市道金成線(右側)

編集後記

今年は台風の多い年でした。台風7号・9号・10号と立て続けに本市を襲いました。道路、水路等合わせて100力所余りの被害を受け、中でも福岡の不忘・三住地区では甚大な被害を被りました。心からお見舞い申し上げます。

今年の夏は、太平洋高気圧の張り出しが弱かったため、日本への上陸が多かったと言われております。近年の自然災害は常識を覆す、経験したことのない規模で発生しております。

『治にいて乱を忘れず』
平穏な時でも、万の備えは万全にしたいものです。

今号も、議会だよりをお読みいただきありがとうございます。

議会広報委員会

四電英夫

議員	菅野恭子
委員長	佐藤聡一
副委員長	佐藤龍彦
委員	保科善一郎
委員	大町栄信
委員	四電英夫
委員	佐藤秀行
委員	松野久郎